

# やすらぎ通信

第 22 号 (平成 24 年 9 月 1 日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

長月 (稲刈り月)

## 月の砂漠

作詞 加藤まさを 作曲 佐々木すぐる

- (一) 月の砂漠を はるばると  
旅のらくだが 行きました  
金と銀との くら置いて  
二つならんで 行きました
- (二) 金のくらには 銀のかめ  
銀のくらには 金のかめ  
二つのかめには それぞれに  
ひもで結んで ありました
- (三) 先のくらには 王子さま  
あとのくらには お姫さま  
乗った二人は おそろいの  
白い上着を 着ていました
- (四) ひろい砂漠を ひとすじに  
二人はどこへ いくのでしょうか  
おぼろにけふる 月の夜を  
対のらくだは とぼとぼと  
砂丘を越えて 行きました  
だまって越えて 行きました

今日から季節の上では9月、立秋も過ぎてから随分と経ちますが、まだまだ暑い日はこれからも続きます。今年は、電力不足による節電もあり、いつもの夏以上に暑い夏となっていますが、皆さん方お変わりございませんか。こういう時は、気分だけでも秋に浸かり、ゆく夏の暑さをしのぐのも一つの手ではないでしょうか。自然界では、人間世界の暑さとは無関係に、季節は確実に変わっていきます。雑草の世界もそうです。見た目は、まだ夏の雑草が生い茂っていても、その葉に隠れて、秋の雑草が確実に目を出す準備をし、コオロギやえんまコオロギも早くなった日暮れとともに、顔を出し、そのかわいい音色を聞かせてくれます。また、セミもこれまでのクマゼミにかわりツクツクボウシが遠慮がちで上品な声で秋の訪れを知らせてくれます。まだ、これらの生物たちが、季節を違えず命の活動を続けてくれている限り地球はまだまだ大丈夫でしょう。今月は、夕涼みも兼ねて、万代池に「小さな秋」の訪れを見つけに行くと言うのはいかがでしょうか。



秋と言うと、芸術の秋。芸術と言えば音楽やバレエなどの舞台芸術もありますが、今月は、少し美術を取り上げてみたいと思います。

皆さん、今日本で美術展を開催した場合、誰の作品を取り上げたら最も多くのお客さんが入るとお考えですか？ゴッホとおっしゃる方も多いと思いますが、実はフェルメールなのです。フェルメールの人気の高さは、日本ばかりでなく世界中の現象だと言われていますが、特に「日本人はフェルメールが好き」ではないかと思っています。

今年も、フェルメール作品をテーマにした大規模な美術展が三か所ですでに開催され、一部はこの秋に西日本で引き続き開催されることになっています。

実は、この私もフェルメールの作品に魅了され、数年前に「小路（こみち）」などの作品が日本にやってきたときにも東京上野公園にある東京都立美術館に出かけていきました。その時は、平日であるのに関わらず、美術館に到着したときに既によくの入館者で入り口が溢れており、入場まで約40分以上並ばなければなりませんでした。

フェルメールは日本では美術展の「キラーコンテンツ」と呼ばれているようです。強烈な個性がほとぼしる作品で多くのファンを持つゴッホこそ「キラーコンテンツ」だと思ってしまいますが、近年における美術展の回数を見れば、間違いなくフェルメールです。やはり、2000年に大阪で開催された美術展で展示され、そのポスターを彩ったフェルメールの最高傑作「真珠の耳飾りの少女（青いターバンの少女）」の強力なインパクトが日本人の心に与えた影響がとても大きかったのでしょうか。あの抜ける

ようなフェルメール・ブルーと呼ばれる群青、ウルトラマリンで描かれた青いターバンと、モナリザのように謎を秘め、何かを語りかけるような表情の少女の絵に多くの日本人は魅せられました。また、この美しい色の原料が、ラピスラズリという「星の瞬く夜空を連想させる美しい宝石」を原料に作られていたということも、この作品を一層ロマンチックなものにしています。

フェルメールは、一生で描いた画の数は35作品とも37作品とも言われています。これは、まだ真贋が確定していない絵があるからですが、一人の職業画家としては極めて少ない数です。その少ない作品のなかで、このラピスラズリを原料にしたウルトラマリンを使った作品は24点にもものぼります。ラピスラズリは普通の青色顔料の100倍、金に匹敵する非常に高価な顔料でしたが、フェルメールは自分の作品に惜しげもなくそれを使っています。このことから、フェルメールは、非常に裕福な家庭の子弟（一説によれば宿屋や居酒屋を営んでいた父の後を継いでこれらを営んでいた）で、作品の少なさから職業画家ではなかったのではないとも言われていますが、その実像に迫る記録は残されておらず、未だ詳細は不明です。

フェルメールは、1632年にオランダの西南部、海に近い古都デルフトで生まれ、1675年に亡くなるまで、ほとんどをこの街で暮らしました。17世紀、オランダは、もともと盛んだった毛織物業に加え、東インド会社を中心とした海外交易の拡大で巨万の富を得る一方、カソリックの牙城、フェリペⅡ世の統治するスペイン・ハプスブルクを相手にした対スペイン独立戦争（30年戦争）に勝利し、ヨーロッパで初めてプロテスタントの国として独立を勝ち取り、スペインに代わり世界最大の海洋国家としての地位を築きました。（プロテスタントが多かった北部17州がネーデルランド連邦共和国として独立、1648年ヴェストファーレン条約で承認。また、カソリックが多くを占めていたネーデルランド南部諸州はその後、ベルギー、ルクセンブルクに。）

ドイツのルターの宗教改革に端を発したキリスト教会の改革は、その隣国ネーデルランドでプロテスタントによる市民国家の誕生という形で結実しました。このことは、絵画の世界にも革命的な変化をもたらします。

それまで、絵画の発注主は教会や王侯諸侯でしたが、これらに代わり、富裕な市民層が絵画の発注の主役となりました。彼らの間では、富で築いた自分の大邸宅に画を飾ることがもてはやされたことにより、美術作品への需要が大きく高まりました。このことを背景としてそれらの需要に応えるため、多くの職業画家が市場に参入し、富裕層の需要に応じていきました。こうして、17世紀は「オランダ絵画の黄金期」と言われるほどに絵画ブームは過熱しました。

（オランダではこの頃、「チューリップ・バブル」という世界最初のバブル（経済の過熱）が起こっています。特定の珍品種のチューリップの球根が投機の対象になり、

一つのチューリップの球根に大邸宅が建つくらいの値段がつき、最後には農民もその投機に巻き込んで行きました。このバブルは3年間続き、その後突然チューリップの暴落が起こり終焉しました。このバブルにより、しかし、多くの市民が大きな損失を被ったと言われています。オランダが当時、海外との交易で莫大な富を蓄積していたことを象徴する出来事でした。)

なかでも、「光の魔術師」と呼ばれたレンブラントは、その潮流に乗り、ピーク時には約 50 人の画家を自分の大邸宅兼工房に住ませ、自分の名前の画を作らせ売りさばくことにより、巨万の富を築いたと言われています。もともとレンブラントは裕福な製粉業者の子どもとしてアムステルダム郊外のライデンという街で生まれました。彼には、画家としての才能と、企業家としての素質が兼ね備わっていたのでしよう。絵画の「受注—制作—販売」というプロセスを自分の工房で事業化したわけです。その中でレンブラントは、弟子たちが描いた作品もレンブラント作として売却しました。このため、約 1000 に上る莫大な数のレンブラントの作品が後世に残されましたが、1968 年にその作品を鑑定するプロジェクトが設けられ鑑別が行われた結果、レンブラントが実際に描いた作品はその約半数であることが証明されました。今では、その弟子たちが描いた作品は「レンブラント派」と呼ばれています。

このような絶頂期にあったレンブラントですが、突然のある事件がきっかけになってその絶頂にピリオドが打たれることになりました。それはレンブラントの最高傑作と言われる「夜警」の制作にともなって起こりました。レンブラントの「夜警」はルネサンス期の最大の巨匠ダ・ヴィンチの「モナリザ」、スペインバロック絵画の巨匠ベラスケスの「女官たち (ラス・メニーナス)」と並んで世界三大名画と言われる作品です (エル・グレコの最高傑作「オルガス伯の埋葬」を入れる説もあります)。この「夜警」の制作にからんで事件が起こりました。

当時、アムステルダムでは、独立を勝ち取った市民たちが、従来の教会や王侯貴族の警察に代わって、自分たちで集团的に街を統治していました。市民の間では、集団で活動する自分たちの姿を画として集会所などに掲げるため「集団肖像画」という画が流行しました。今でいうと記念写真みたいなものです。この集団肖像画の制作に当たっては、画の登場人物は平等にお金を出し合って画家に画の制作を依頼し、画家は制作にあたって「人物は皆平等に描かなければならない」というルールがありました。

この「夜警」は当時の夜警組合からの発注により描いた作品ですが、レンブラントはこの「夜警」の制作でそのルールを破ってしまいました。より芸術性の高い画を描くため、登場する人物に様々なアクセントをつけました。警備隊の隊長などは中心部で大きく光りを当て浮かび上がらせ、周辺の人物は暗く小さくくすんで描かれまし

た。また、表情も生き生きと写実感が出るように様々に描き、また発注主でない人物も加え、さらに、当時病床にあった自分の妻サスキアだと思われる少女の姿も夜警団の後ろに書き浮かび上がらせました。その結果、この作品は世界三大名画と言われるほどの素晴らしい作品に仕上がりましたが、収まらなかったのが発注主たちです。彼らとレンブラントとの間で深刻なトラブルとなり、ついには訴訟に発展しました。

この事件を契機に、レンブラントへの画の注文は急速に減っていきました。これに追い打ちをかけるように生まれたばかりの二人の子ども、娘、自分の母親と次々と亡くなり、最後には最愛の妻サスキアまで 30 才の若さで亡くなりました。残されたのは自分と一人の息子。さらに画の発注が激減する中でも放蕩な生活をやめることが出来ず、大邸宅も手放しましたが遂には破産してしまいました。そして、全てを失ったレンブラントは最後淋しく息を引き取り人生を終えました。

フェルメールは、こうした時代背景のもとで、また、レンブラントを始めとする「光派」の強い影響を受けて創作活動を行いました。

フェルメールが描いた作品は、初期の頃はこれまでの絵画の流れを汲んだ宗教画を描いていましたが、その後、発展する自由な市民社会を背景に、また、カソリックの束縛からも離れ、台頭する市民（ブルジョアジー）の日常の何気ない生活を画のモチーフに取った風俗画に転換していきます。そして、このなかで、光を取り入れた独特の絵画手法を確立していきます。また、同時に生まれ育ったデルフトの美しい風景をキャンパスに切り取った美しい風景画も描きました。

フェルメールの風俗画の優れた特徴は、窓から差し込む光を使い、光の当たる部分と影を使い分け、そのコントラストにより人物の微妙な感情や心の内面を写し出しているところだと言われていますが、そのモチーフになっているのはほとんどが普通の家庭の女主（おんなあるじ）や娘とその召使いたちの日常生活です。

またこれらは、美術作品としての価値とは別に、当時のオランダの繁栄のなかで、裕福な一般家庭の女性たちがどのように暮らしていたのかを伺い知るうえで、とても貴重な資料でもあります。たとえば、手紙を読んだり書いたりしている女性の画が多くありますが、これは既にオランダでは郵便制度が整備され、誰にも見られたり聞かれたりせずに、自分の内心を相手に伝える便利な手段として手紙が市民に浸透し出していたことを示しています。

また、ヴァージナル（小さなチェンバロの一種）やリュート、ヴィオラ・ダ・ガンバなどの楽器も多く描かれています。これも、それまでは、音楽が教会や王侯貴族の独占物であったものが、市民に浸透し始め、市民が自ら楽器を演奏して楽しむことができる時代になってきていたことを示しています。

また、男性がモデルになっている「天文学者」と「地理学者」という2作品は、それぞれ天球儀と地球儀を覗き込んでいる学者の姿が描かれています。世界地図を読み取る技術や天体を見て航測する技術が、海洋国家オランダにとってとても重要であったことを示しています。また、多くの画の背景に壁に、掲げられている地図が描かれています。地図が実用だけでなく、壁の装飾に使われるほど当時のオランダにとっては地図が大切なものであったことを示しています。

さて、今年は、日本の展覧会市場を見れば、「フェルメールイヤー」といっていいくらい、フェルメールが多くやって来ました。来日した作品数は三つの美術展で6点にも上り、これは2000年の大阪の6作品、「デルフトの小路（こみち）」などがやってきた2008年の東京都立美術館の7作品以来のスケールです。そして最大のトピックは、あのフェルメールの代名詞とも言うべき「真珠の耳飾りの少女」が、「マウリッツハイス美術館展」で2000年以来初めて来日したことです。

「マウリッツハイス美術館」はオランダ・ハーグにある小さな王立美術館ですが、数少ないフェルメールの作品のなかで「真珠の耳飾りの少女」「ディアナとニンフたち」「デルフトの眺望」といったフェルメールの超傑作と言われる作品を3点も所蔵している屈指の美術館です。今回は、「デルフトの眺望」を除く2点のフェルメール作品と、同時代にオランダ・フランドル地方で活躍したレンブラント、ハルス、ダイク、ルーベンス、ブリューゲル（父）などの巨匠たちの作品約30点も来ています。

この美術展は、9月29日（土）から来年1月6日（日）まで神戸市立博物館で開催されます。近いので是非神戸に足を運ばれることをお勧めします。

次にご紹介するのは、『真珠の首飾りの少女』in ベルリン国際美術館展。これは副題に「一学べるヨーロッパ美術の400年」とありますように、ベルリン国際美術館が所蔵している15世紀から18世紀の作品を「宗教改革」「イタリアルネッサンス」「市民の台頭と戦争」「人文科学や自然科学の発達」という時代区分に分けて展示し、その中にデューラー、クラーナハ、ベラスケス、ジョルダノ、レンブラント派などの作品とともに、フェルメールの「真珠の首飾りの少女」が日本で初めて公開されています。

この美術展は、今月の17日まで東京・国立西洋美術館、10月19日からは12月2日までの期間で福岡市の九州国立博物館で開催されます。

最後の美術展は「フェルメールからのラブレター展」です。もう終わってしまいましたが参考までにご紹介しておきましょう。

この美術展は、今年の夏に京都市美術館からスタートし、仙台市の宮城県美術館、東京渋谷の「Bunkamura ザ・ミュージアム」と3会場を巡回し、今年の3月14日で

終了し、3会場で60万人以上の入場者があったそうです。こちらは、「手紙」を切り口に、日本初公開の「手紙を読む青衣の女」（アムステルダム国立美術館蔵）のほか、「手紙を書く女」（ワシントン国立美術館蔵）、「手紙を書く女と召使い」（アイルランド国立美術館蔵）の3作品を一気に集めた意欲的な美術展でした。

ところで、日本にフェルメールが初めて入ってきたのは1968年国立西洋美術館の「レンブラントとオランダ絵画巨匠展」の「ディアナとニンフたち」が最初ですが、あくまで主役はレンブラントであって、フェルメールは「その他もろもろの巨匠たち」の中に含まれる扱いでした。

その後、1974年国立西洋美術館「ドレスデン国立美術館所蔵ヨーロッパ絵画美術展」（「窓辺で手紙を読む女」）、1984年国立西洋美術館「マウリッツハイス王立美術館展」（「真珠の耳飾りの少女」、「ディアナとニンフたち」）、1987年国立西洋美術館「西洋の美術 その空間表現の流れ」（「手紙を書く女」）、1999年京都市美術館「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展」（「手紙を書く女」）とフェルメール作品が来日しています。

しかし、2000年までの日本国内の美術展でのフェルメールの扱いは控えめで、決して今日のようなメジャーな存在ではありませんでした。

それを劇的に変えたのは、2000年（平成12年）4月4日から7月2日の述べ78日間にわたって天王寺公園にある大阪市美術館で開催された「フェルメールとその時代展」でした。この年は、日本とオランダの交流が始まって400周年という節目の記念すべき年で、このフェルメール展はその記念事業として開催されました。フェルメールにスポットを当てた日本で最初の大きな美術展で、主催は大阪市、毎日新聞、毎日放送の三者でした。

結果として、この美術展で出展されたフェルメールの作品は、「真珠の耳飾りの少女」のほか、「聖プレクセデス」（バーバラ・ピアセッカ・ジョンソン・コレクション所蔵、プリンストン）、「リュートを調弦する女」（メトロポリタン美術館、ニューヨーク）、「天秤を持つ女」（ワシントン・ナショナルギャラリー）、「地理学者」（シュテール美術館、フランクフルト）で初来日4点を含め実に5作品にも上りました。

この美術展が開催されるまでは、フェルメールと言っても当時まだあまり名も売れておらず、また、どれだけの作品を集めることができるのかなど美術展を成功させるには、様々な難しい課題が横たわっていました。

そこで白羽の矢が立ったのが、当時シカゴ美術館館長をされていた蓑豊（みの ゆたか）さんです。大阪市とシカゴ市は長年姉妹都市関係を築き、また大阪商工会議所もシカゴに事務所を持つなど、古くから馴染みのある関係だったことからでしょうか

蓑さんを大阪市美術館長に迎えることに成功しました。

蓑さんは、慶応大学卒業後、専門の中国陶磁器の研究を進めるためカナダのトロントにわたり、その後ハーヴァード大学で学位を取られた以降、「モントリオール美術館」「インディアナポリス美術館」「シカゴ美術館」でキュレーターをつとめられました。特に、最後のシカゴ美術館は、ニューヨークのメトロポリタン美術館、ボストンのボストン美術館と並ぶアメリカの三大美術館と言われており、この美術館で日本人初の東洋美術部長という重職に就かれていた「大物」です。蓑さんは、「フェルメールとその時代」展に先立つ4年前、1996年にシカゴ美術館を辞めて大阪市美術館の館長として赴任されました。

この美術展をスタートさせるに当たって、時の大阪市長さんは、蓑さんにこのように注文をつけられたと、後になって蓑さんはNHKラジオ深夜便で語っておられました。「フェルメール展を行うに当たって二つの条件がある。まず、10億円の事業費のうち大阪市は後にも先にも3億円しか負担しない。二つ目は必ず目標の入場者数60万人を達成してほしい。」と。

2か月余りの期間で60万人という数字は、東京ならいざ知らず大阪では前人未達の、とてつもなく高い目標です。また、事業費も、共催の新聞社や放送局の負担金があっても、やはり60万人の入場料収入がなければ達成できない数字です。

このため、蓑さんは思いっきり宣伝に予算をかけるという決断をされました。1億円の宣伝費です。蓑さんは美術展そのものの内容には、当然のことながら成功する強い自信がありました。しかし、その美術展の内容が日本中に浸透しないと、いくら内容が良くても足を運んでくれません。破格の1億円という宣伝費を使うことにより、この戦略は見事に的中し、青いターバンを身につけた美しい少女の画像は日本中に溢れかえることになったのです。フェルメール展の知名度は一気に上昇し、当初芳しくなかった入場者数も徐々に増えていきました。

この美術展の最終入場者数、約59万人。60万人にはぎりぎり届きませんでした。蓑さんは事実上、目標を達成されました。

蓑さんは、この「フェルメールとその時代展」を大成功に導かれたのち、大阪市美術館長を兼務しながら、故郷金沢市の金沢21世紀美術館の開設と運営に初代館長として携わられました。そして金沢の美術館を年間入館者150万人という日本で最も多くの入館者がある美術館に育て上げられました。金沢21世紀美術館は、なかなか集客が難しい現代美術を展示している美術館でありながら、現代美術館としてのこの数字は驚異的な年間入館者数です。

蓑さんは金沢の仕事が一区切りつかれた後、両美術館の名誉館長、特任館長として第一線を退かれました。その後、一旦アメリカに戻られ、ニューヨークにある世界的

な美術品のオークション会社サザビーズ北米本社の副会長に就任され、美術品ビジネスの世界に入られました。

しかし 2010 年に、今度は兵庫県立美術館長として関西の地に戻って来られ、再び美術館の第一線に立たれています。

今日の日本におけるフェルメールブームは、蓑さん抜きに語るできません。また、そのブームを巻き起こした「フェルメールとその時代展」が大阪で開催されたことは、大阪の発展にとってもとても誇れることでした。

しかし、その後、フェルメールの美術展が大阪で開催されることはなくなってしまいました。

日本の文化に対する投資は公的セクターも企業も、残念なことに時の経済動向に左右されるきらいがあります。景気がいい時は文化への投資が拡大しますが、景気が悪くなれば縮小していきます。しかし、以前にも述べましたようにフランスを始めヨーロッパでは、文化は都市を支えるインフラの一部という考え方がしっかりあり、日本のように景気動向により投資額が左右されるということはないと言われています。

都市格という言葉がありますが、文化はその都市のイメージ（品格）を形成し観光客やビジネス客の集客などを通して大きな経済効果をもたらします。景気が悪くなったときには、観光客の集客などを通じ地域経済へのダメージを和らげる緩衝剤にもなります。しかし、景気低迷時に文化への投資を減らすと、より景気低迷が深刻化してしまいます。文化にそうした機能を持たせるには、景気の変動に関わらない都市のインフラとしての持続的な投資が必要です。

また、文化は、本来こどもたちの情操を豊かにし、大人たちにも文化を通して豊かな心を持ち、豊かな充実した人生を送るうえでの不可欠なサプリメントにもなるものです。

蓑さんは「美術館ができることによりまちが活性化する。」「フランスのポンピドゥーセンターができたとき、古い街なみのど真ん中に工場みたいなとんでもないものを作ったとパリッ子からごうごうたる批判が出た。しかし、20年経ってポンピドゥーセンターは街なみに溶け込み、今では年間何百万人という方が訪れ、なくてはならないものになった。」「本当にこどもたちには小さいころに感動してほしい。小さいころに体感した感動は一生忘れません。感動を経験した子どもが大人になり、親になれば必ず自分の子どもも美術館に連れてきて感動を体感させてやりたいと思うようになるのです。」と語っていらっしゃいます。この蓑さんの言葉が文化の本質を全て語っているように思いますが、皆さん方いかがでしょうか。



お便り

さて、いよいよ9月。今年も相愛大学、森ノ宮医療大学との連携事業のシーズンとなりました。

まず、毎年シリーズで企画しております「生と死を、今考える」シリーズですが、今や国民の2人に一人がかかり、3人に一人が亡くなると言われるがんをターゲットにして、一昨年は「スピリチュアルケアの可能性」、昨年は「やすらぎのがん医療」をテーマとしてお送りしてまいりました。おかげをもちまして、この問題に対する関心の高さを反映して、2回とも講堂が満席になるくらいの方々にご参加していただきました。

その中で、毎回ご参加いただいた方々にアンケートをさせていただいておりますが、「来年もこのシリーズは続けてほしい」との声が多く寄せられましたため、皆様方のご要望にお応えしまして第三弾「生と死を、今考えるⅢ～疫を免じるーがんと免疫の力～」と題して今年も開催することになりました。

免疫は、生物としての人間の中に自然に備わった生体防御反応です。人間が、多くの細菌やウイルスに囲まれて生活していても、また毎日多くのがん細胞が体内に発生しても、大半の人が感染症にかからず、またがんにもならないのは、この免疫があるからです。免疫を、がん治療に応用する免疫療法は随分以前から行われてきましたが、近年大阪大学の杉山治夫先生が発見・開発された WT1 ペプチドをターゲットとする WT1 免疫療法は、白血病の末期がん患者が5年以上生存するなどの画期的な成果を上げられております。WT1 免疫療法のネットワークも国内の大学病院だけでなくドイツなど海外の大学病院にまで広がっており、臨床研究や治験を通じて、徐々に医薬品としての開発に向けた実績も積まれております。昨年のノーベル生理学・医学賞もアメリカ、フランス、カナダの3人の免疫学者に授与されたこともあり、免疫や免疫療法に対する関心が非常に高まっていることを受けて、今年のがんと免疫をテーマに取り上げ、開催することにしました。受付は今年10月からスタートしますので、皆さん方の奮ってのお申込みをお待ちしております。

また、併せて、今年も糖尿病予防セミナーを相愛大学との連携事業として実施することになりました。これも、昨年の参加者の皆さんのアンケート結果にお応えする形で開催させていただきます。こちらの方は行事が11月のため、10月からの受付になりますが、こちらの方にも奮ってのご応募を期待しております。よろしくお願ひします。

## NEWS

### 【(新) 進む！放射線治療装置を活用したがんの低侵襲治療—放射線治療科—】

当センターの放射線治療装置を一新して1年余りが経過しました。この期間に脳・肺・肝に対する定位照射、前立腺 IMRT（強度変調放射線治療）を順次開始し、今年4月からは頭頸部腫瘍に対する IMRT も開始しています。画像誘導技術を用いた低侵襲治療が可能で、脳定位照射などいずれも外来通院で治療は完結できます。

現在では高精度治療は初診から数週間程度で、待機可能な前立腺癌に対する IMRT でも3ヶ月待ち程度で受けて頂くことが可能となっています。

また、小線源治療（高線量率遠隔治療および前立腺癌に対する低線量率ヨード線源永久挿入療法）も行っています。

放射線治療装置を用いたがん低侵襲治療に関しては、お気軽にご相談ください。

放射線治療科 部長 嶋本 茂利まで

### 【(継)前立腺がんの手術—内視鏡手術支援ロボット

#### “ダ・ヴィンチ”による手術を他施設に先駆けて本格実施中！】

泌尿器科領域における手術の多くは腹腔鏡手術となってきています。副腎から始まり腎摘除術、腎がんの根治手術に適應され、現在は前立腺がんの手術にも多くの施設で腹腔鏡手術が主流となってきています。

当科では2009年から腹腔鏡下前立腺全摘術を開始し、2010年に施設認定を取得し2011年は69例の前立腺がん手術のうち36例に腹腔鏡手術を施行しました。腹腔鏡下手術は内視鏡で観察しながら行う手術の事で、お腹に大きな創を作ることなく、小さな穴を5~6箇所開けて直径5~12mmのトロカーと呼ばれる筒状の器具を通して行う、体に負担が少なくてすむ手術です。内視鏡で観察しながら行いますので、肉眼よりは拡大視野で行うためにより、細かい手術が可能となっています。尿失禁に関係する尿道括約筋や勃起神経の温存が可能です。開腹手術に比較して出血量も極めて少なくなっています。傷の治りが早く術後の痛みが少ないため術後回復が早いことが特徴で、入院期間は10日から2週間ぐらいの期間です。

今年の診療報酬改定に伴い医療用ロボットを使った手術が保険で行うことが可能となったため、当センターでは府内の他施設に先駆けて、手術支援ロボット「da Vinci S」（ダ・ヴィンチ）を導入・活用し、前立腺がんの内視鏡手術を行っています。

このダ・ヴィンチによる手術の特徴は術者が拡大された3次元の画像を見ながら手術操作を行うところにあります。手術操作鉗子の先は手首や指の関節のようになめらかに動き、手以上の可動域を持っており、より細かな手術操作が可能となり、狭い骨

盤の底で尿道と膀胱をつなぎ合わせる前立腺がんの手術には最適の医療技術です。前立腺はクルミ大の大きさで周囲は膀胱、直腸があり、周囲には血管や勃起に関する神経や尿道括約筋が存在します。拡大された3次元の画像を見ながら、術者の手の動きは縮小され、手ぶれも補正されて行われるため正確な手術が施行可能です。特に尿道と膀胱の吻合はダ・ヴィンチならではの有用性が活かされます。したがって、がんの根治性の向上はもとより、勃起機能不全や尿失禁などの合併症の軽減も期待できます。

#### 【(継) PET-CT 地域の医療機関からの検査受付しております—画像診断科】

PET-CT検査につきましては、先月からは地域の医療機関からの撮影依頼も受け付けています。お問い合わせは画像診断科 RI (核医学)・PET 検査室まで。

(当センターの PET-CT は検診依頼には対応しておりませんのでよろしくお願い致します。)

#### 【(継) 「医療相談」コールセンターのご利用を一地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。

是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

新たに開設! 06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日

午前9時～午後5時

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

#### 【(継) 診察予約変更センター

**11 診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています!**

当センターでは、下記の 11 診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。

なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意ください。ようお願いします。

(電話番号) 06-6692-1201 (代表) にダイヤルして

「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科  
免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科  
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(継) 入院治療費の概算を予めお知らせしています】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

今月の催し

【(新) 参加者募集！ 相愛大学×当センター×森ノ宮医療大学連携シンポジウム】

「生と死を、今考えるⅢー“疫を免じる”・がんと免疫の力ー」

I 基調講演

「ここまで来たがん医療ーWT1がん免疫療法の最新の成果」

大阪大学大学院医学系研究科教授 杉山 治夫

関連講演

「がん診療における免疫力」

当センター医務局長 谷尾 吉郎

II パネルディスカッション「免疫と健康ー笑いは健康の原点」

① 落語 落語家 笑福亭 松喬

② ディスカッション

コーディネーター 釈 徹宗（相愛大学人文学部教授）

パネラー 笑福亭 松喬（落語家）

浅田 章（相愛大学人間発達学部教授）

青木 元邦（森ノ宮医療大学保健医療学部教授）

山田 義美（当センターがん患者会「ひまわり」代表）

谷尾 吉郎（当センター医務局長）

日 時 10月20日(土) 午後1時～午後4時30分

申込み 当センター TEL：06-6692-2222

または、ホームページ申込み画面より

期 限 9月10日(月)～10月15日(月) 先着200名

## 【(新) 参加者募集！ 相愛大学×当センター連携事業

### 第3回糖尿病予防セミナー】

日本では、糖尿病や糖尿病の疑いのある方が増えています。その改善には食事などの生活習慣の改善が欠かせません。そこで当センターと相愛大学が連携・協働し、患者さん以外の方も対象に、本セミナーを開催し、お一人お一人が食事など生活習慣の問題を考え、改善するきっかけを提供させていただきます。

なお、本セミナーは『世界糖尿病デー』（11月14日）の行事の一環として開催します。

日 時 11月10日（土）午後1時30分～4時

内 容 テーマ「糖尿病予防のキーワードは**野菜！**」

糖尿病予防で最近、特に注目を浴びているのが野菜！

1日に必要な野菜は350g。しっかり摂れていますか？

聞いて、見て、体験して考えてみませんか？

① ミニ講座

② 相愛大学学生と教員が考えた体験学習コーナー

・食育SATシステムによる食事診断

・体脂肪、筋肉量測定

・血糖値測定

・野菜コーナー、クイズラリーなど

申込み 当センター TEL：06-6692-2222

またはホームページ申込み画面より

期 限 10月1日（月）～11月5日（月） 先着200名

## 【(新) 府民公開講座 一みんなて学ぼう高齢者の大腸がんー】

もし大腸がん診断されたら？「思い切って手術」「放射線治療が楽でいい」「抗がん剤で様子を見よう」とか言われるけど、どれがいいのでしょうか。また、「高齢者のがんは進行が遅い」って聞いたけど本当でしょうか。大腸がんの知識と適切な治療法について一緒に考えましょう。

日 時 9月8日（土） 午後1時30分～3時

場 所 本館3階講堂

講 師 外科 副部長 玉川 浩司

（先着 100名、入場無料）

【(新) 骨髄バンク支援・「愛のかけはし」シャンソンコンサート】

—骨髄バンクの支援を行っているプロのシャンソン歌手&

ケルティックギター奏者による愛のコンサートです—

日 時 9月10日(月) 午後2時～3時

場 所 本館3階講堂

出 演 (ケルティックハープ)

柳井 康子 「あかとんぼ」「里の秋」ほか  
(シャンソン)

川島 ひとみ 「コメディアン」「サン・トワ・マミー」ほか

淵上 秀樹 「ろくでなし」「セ・シ・ボン」ほか

てらだ けいこ 「からたちの花」「夢路より」ほか

まなべ みきお 「公園の手品師」「風船売り」ほか

(入場無料)

【(新) 今月のすこやかセミナー】

① 「リウマチ治療の進歩」

日 時 9月13日(木) 午後2時～3時

場 所 3階保健教室

講 師 免疫リウマチ科 藤原 弘士

(参加無料)

② 「知っててよかった救命救急基礎知識 2012」

日 時 9月28日(金) 午前11時～12時

場 所 3階保健教室

講 師 高度救命センター長 藤見 聡

【(新)】大好評！！

相愛大学連携・外来糖尿病教室 ～知って得する！糖尿病の付き合いかた～】

日 時 9月19日(水) 午後2時～3時30分

場 所 1階アトリウム

内 容 「インクレチンって何？—新しい糖尿病のお薬の話し—」

糖尿病代謝内科医師 藤田 洋平

「ブドウ糖の大冒険」

糖尿病看護認定看護師 後藤 博美

「食欲の秋に向けて」

管理栄養士 笠井 香織

**【(新) 毎度おなじみ!・「南京たますだれ一座」によるたますだれと皿回し】**  
—お馴染みの熟年女性グループによる楽しいイベントです。

あなたも玉すだれ、皿回しに挑戦してみませんか!—

日 時 9月20日(木) 午後2時～

場 所 本館1階アトリウム、談話室

**【(新) 第9回万代・夢寄席 平成の爆笑王!桂かい枝 落語会】**

日 時 9月24日(月) 午後2時～

場 所 本館3階講堂

主 催 万代やすらぎ亭

**【(継) 開催!前田藤四郎「昭和モダニズム」・元永定正「色彩の魔術」版画二人展】**

前田藤四郎(1904-1990)は、兵庫県生まれで神戸高商(現神戸大学)を卒業した後松坂屋宣伝部に入社。商業美術に携わる一方独習で版画の世界に。主に関西を中心に、木版をベースに、リノリウムやシルクスクリーンをも使用し、油彩絵具で刷り上げる独特の明快な作風を確立。昭和の大阪のモダニズムを代表する版画家となった。

元永定正(1922-2011)は、三重県生まれで、55年に関西を拠点とする前衛美術集団「具体美術協会」に参加し、吉原治郎に師事。偶然性を取り入れた抽象的なオブジェや平面作品を制作。おおらかでユーモアあふれる作風を確立する一方、70年代からは版画制作にも意欲的に取り組み、自作へのネーミングには抜群のセンスを発揮。

今回の企画展では、関西を代表した二人の巨匠の作品を同時展示しております。

是非、ご来場ください。

なお、本企画展は大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力で開催しております。

日 時 6月25日(月)～9月21日(金)(午前9時～午後5時30分)

場 所 本館2階現代美術空間—病院ギャラリー

**【(新) 第6回企画展!前田藤四郎 抽象版画後期作品展】**

前田藤四郎(1904-1990)氏の、後期の抽象版画の作品を新たに展示します。

なお、本企画展は大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力で開催しております。

日 時 9月24日(月)～12月21日(金)(午前9時～午後5時30分)

場 所 本館2階現代美術空間—病院ギャラリー

**【(継) 開催!芦屋市美術協会会員—小林芳夫写真展～邂逅の世界から～】**

当センターの前身である旧大阪府立病院で心臓疾患の専門医(1988年、心疾患専門

診療科部長で退職)として勤務していた小林芳夫氏が、退職後に本格的に写真家として活動を開始。今日まで日本国内のみならず、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなど世界各地で撮影を行い、10年ごとに3冊の写真集「邂逅」「邂逅Ⅱ」「邂逅Ⅲ」を出版(1作目は自費出版)。

多くの作品を大阪大学などに寄贈されるなか、氏の手元に残された秀作16点の写真展を開催しています。

日 時 6月25日(月)～12月21日(金) (午前9時～午後5時30分)  
場 所 本館2階現代美術空間一病院ギャラリー

### 【(継)免疫リウマチ科 藤原主任部長が外部講演会で話します!】

— テーマ:「膠原病の基礎知識と最新の治療」 —

日 時 10月28日(日) 10:15～12:00  
講 師 免疫リウマチ科主任部長 藤原弘士  
主 催 NPO法人大阪難病連  
場 所 エル・大阪

ご参加を希望されます方はNPO法人大阪難病連(ホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~nanren72/index.html>)にお問い合わせ下さい:  
電話 06-6933-1616、または メール [nanren@vesta.ocn.ne.jp](mailto:nanren@vesta.ocn.ne.jp)  
(免疫リウマチ科 藤原 弘士)

## Topics

### 【(新)行く夏を惜しむ9月! やすらぎのプロムナード—北側通路周辺—】

残暑が依然として厳しいですが、秋分を境としてプロムナードは秋色に徐々に変化。虫たちの声も秋の虫に取って代わられます。行く夏を惜しみつつも、新しい季節の訪れに期待をもって、プロムナードでひとときの休みを取ると言うのもいかがですか。

## 今月のNICさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社NICの窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

### 【(新)8階東病棟クラーク 池田貴代美さんの巻】

はじめまして。私達は病棟のナースステーションでお仕事させていただいております、病棟クラークの池田と申します。

病棟クラークと申しますのは、入院患者さんが入院されてから退院されるまでに必

要な事務手続や、安心してお過ごしいただくためのお手伝いをさせていただくスタッフです。仕事の一つに、各ナースステーションのカウンターで患者さんやご面会の方々へのご案内があります。入院することへの不安がいっぱいで来院される患者さんやご家族の方々へ最初の笑顔をお届けするのは私達です。そして退院される日まで、気持ちよく過ごして頂くのも私たちの役目です。

「リハビリへ行ってきます」・・・「行ってらっしゃい！」

「検査から帰ってきました」・・・「お帰りなさい！」

心地よい挨拶で心と心が通じ合える一瞬を感じていただけるよう日々努力しています。時には、先生方や看護師さんの力で日々輝きを取り戻される患者さんから、私達の方が励まされ力をいただく時もあります。

これからも、患者様との『出逢い』と『ふれあい』を大切に心に残るメッセージと笑顔を送り続けたいと思っています。

### その他のお知らせ

#### 【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

#### 【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。

なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。